

莢がはじけにくい大豆新品種 「フクユタカ A1 号」

関東南部から九州で栽培される大豆品種「フクユタカ」に、莢がはじけにくい性質（難裂莢性）を付与した新品種「フクユタカ A1 号」を育成しました。難裂莢性を備えることにより、収穫遅れや過乾燥、収穫機との接触等により莢がはじけて脱粒することが減り、収穫ロスが減ることで実質的な収量向上が期待できます。現在「フクユタカ A1 号」は愛知県で奨励品種として約 4,000ha で栽培されており、品種群設定により「フクユタカ」銘柄で流通しています。

☆ 技術の概要

1. 「フクユタカ A1 号」は大豆品種「ハヤヒカリ」の難裂莢性を「フクユタカ」に導入した品種です。導入は DNA マーカーを利用した連続戻し交配により行われました。これにより「フクユタカ A1 号」は「フクユタカ」の莢がはじける条件下（60℃・3 時間通風乾燥）でも莢がはじけにくくなっています（図 1）。
2. 「フクユタカ A1 号」は難裂莢性以外の特性は、開花期、成熟期、主茎長、子実外観のほか、豆腐加工適性に重要な子実のタンパク質含有率も「フクユタカ」と同等です（図 2）。そのため「フクユタカ」と同じように栽培し、加工利用することができます。
3. 豆腐製造業者による「フクユタカ A1 号」を使用した加工試験では、試験の 9 割以上で「フクユタカ」と同じグループの原料として扱うことができるという評価を得られています（愛知県、三重県、千葉県の実験生産物を使用）。



図1 「フクユタカA1号」の難裂莢性



図2 「フクユタカA1号」の草姿と子実

☆ 活用面での留意点

1. 莢がはじけにくくなっていますが、成熟後の長期間の放置は品質低下を招くので、可能な限り適期の収穫を行ってください。
2. 品種に関するお問い合わせは、農研機構のホームページの「品種についてのお問い合わせ」（<https://prd.form.naro.go.jp/form/pub/naro01/hinshu>）からお願いします。